

館長だより第 15 号(令和8年8月)

暑さにご注意ください

和歌山県内で32年ぶりの酷暑日を記録するなど暑い日が続きますが、それでも午前の早い時間帯や15時以降を中心に、多くの方々が風土記の丘に散歩にみえています。園路の多くの区間は日陰になっていますし、花木園の付近などはよく風が吹き、心地よく歩くこともできます。ただ、山中の園路には給水の設備はありませんので、水などの飲料を用意するとともに、体調の変化に注意しながら散歩をお楽しみください。

資料館の周辺には県内から移築した4棟の民家がありますが、休憩がてら覗いてみてください。柳川家住宅(重要文化財)は間取りも大きくて風がよく通り、中に入ると幾分か気温が下がった感じがします。園路わきの小高い位置にある谷村家住宅(県指定文化財)からの眺めも、なかなか爽やかです。



(谷村家住宅からの眺め)

園内の管理作業を実施中です

資料館は閉館していますが、園内を快適に散歩していただくための日常管理や作業は変わらずに実施しています。7月には資料館周辺の低木の刈り込みや高木の剪定を行いましたので、いまは刈り込んだ低木から新芽が枝を伸ばし、万葉植物園の上にある展望台からの見通しも少しよくなりました。古墳や安藤塚、3km(天王塚古墳への分岐道を含めれば4kmほど)にのぼる園路とその周辺の草刈りも計画的に実施していますので、今年は昨年以上に古墳のかたちが視認しやすくなっていますし、園内の通路も歩きやすい状態で維持されています。

枯損木の除去や園路の修復も、風土記の丘を安全に利用してもらうために欠かせない作業です。岩橋丘陵が全体に岩盤が多いせいでしょうか、樹木が根を張りにくいようで、倒木をみると樹高に比べ根が貧弱で驚くことがあります。枯損の原因はいろいろあるのですが、倒れると園路にかかる可能性がある枯損木は、安全のために除却することになります。



(枯損木の除去作業)

園内にある桜も、広場の周囲にあった数本を花が散った後に除伐しました。園内はソメイサクラが中心ですが、ソメイは50～60年が寿命と言われ、開園後55年となる風土記の丘のソメイは一斉に寿命の時期を迎えていることになります。来園する方からお叱りを受けることもあるのですが、切り株をご覧になれば、倒れなかったのが不思議なくらいの状態であったとお判りいただけると思います。もちろん、今後どのような樹種を植えていくのかについては、風土記の丘全体の計画の中で位置付けていく必要があると考えています。

降雨による園路の毀損も深刻度を増してきました。古墳群をめぐる園路の大半は開園以来未舗装のままですが、最近では集中豪雨に近い雨の降り方も珍しくなくなったこともあって、路面を流れる水が土砂を流出させて路面に深い亀裂をつくるようになりました。資料館から大日山に向かう園路の上部や、大日山から將軍塚に向かう園路で、激しい不陸のために利用者に不便をかけたり、管理用や作業用の車輛の通行も円滑でなくなるなどの支障が出ています。こうした事態の進行を少しでも食い止め、できる範囲で修復する試みを行っています。少ない機械力と職員、手持ちの資材（土は新博物館建設の基礎工事の際にでた掘削を利用しています）では本格的修復には程遠いものではありますが、なんとか利用しやすい状態を維持したいと試みているところで、今月は写真の延長部の補修に重点を置いて取り組む計画です。来園する皆様には作業でご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご理解いただきますようお願いいたします。



（作業途中の状況） → （1回分の作業、約5m）

民家の障子も半分ほど張り替えました。目立つ作業ではありませんが、来園する方々に気持ちよく利用していただくためのしごとを、風土記の丘では丹念に続けています。

普及活動も展開中です

今回は、風土記の丘の環境整備の方面を中心にお話しさせていただきました。もちろん、学芸部門も活動を続けています。休館中の活動の柱の一つに据えた「お出かけ博物館」は、8月に学校や各種施設で11回の予約をいただき、他の資料館の活動への参加1回を加えて、計12回の実施予定となりました。新博物館での展示・研究活動のための資料調査や協力依頼も進めています。資料館は休館中ですが、職員はフル稼働中です。